

令和4年2月25日	
資料提供	
担当課	県立博物館 学芸課
担当者	学芸課長 前田正明
電話番号	073-436-8684

小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるⅦ』 の配布について

和歌山県立博物館では、令和3年度文化芸術振興費補助金(地域と共働した博物館創造活動支援事業)を得て、和歌山県立文書館、和歌山県教育庁文化遺産課、歴史資料保全ネット・わかやまと協力しながら、地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業(全体事業名「社会的課題に地域と共働して取り組む博物館づくり事業」)に取り組んできました(別紙)。

このたび、本事業の調査成果を多くの方々に知っていただくため、調査成果の一部をわかりやすく解説した、別添の小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるⅦ』(A5判、47,000部)を作成しました。調査対象地域である田辺市、上富田町のご協力を得て、2市町の住民の方に対して、全戸配布(無料)します。また、当館に来館された方で、希望される方にも無料で配布します。なお、小冊子の内容は、和歌山県立博物館のホームページからダウンロードすることもできます。

【添付資料】

- ①小冊子(『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるⅦ』)
- ②別紙(『地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業』の概要)

『地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業』の概要

[これまでの取り組み]

和歌山県立博物館では、和歌山県立文書館、和歌山県教育庁文化遺産課、歴史資料保全ネット・わかやまの協力を得て、平成26年度から国庫補助金を活用し、那智勝浦町と御坊市(同26年度)、太地町と串本町とすさみ町(同27年度)、印南町と由良町(同28年度)、新宮市と北山村(同29年度)、日高町と白浜町(同30年)、湯浅町と広川町(令和2年度)で、小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える』Ⅰ～Ⅵを刊行し、関係する自治体の協力を得て全戸配布するとともに、地域住民を対象にした現地学習会「歴史から学ぶ防災」を開催してきました(令和2年度分はYouTubeで公開)。また、令和元年度は、5年間の調査成果をふまえて、高校生を対象とする冊子『「災害の記憶」を未来に伝える—和歌山県の高校生の皆さんへ—』を作成し、県内の高校生に配布しました。県立博物館のホームページでは、これまで刊行した小冊子・冊子をダウンロードすることができます。

[本事業での取り組み]

和歌山県域において、地震津波被害や洪水被害が想定される地域が広範囲に及んでいることを踏まえ、令和3年度は田辺市と上富田町の津波浸水想定地域、洪水想定地域を調査対象地域とし、田辺市・田辺市教育委員会、上富田町・上富田町教育委員会などの協力を得て、「災害の記憶」の発掘と対象地域に残る文化遺産の所在確認を行います。

本事業の調査成果を地域住民の方々に還元するため、啓発用小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるⅦ—命と文化遺産とを守るために—』を作成し、無料で配布します。なお、令和4年2月26日・27日に開催予定であった現地学習会「歴史から学ぶ防災2021」は、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、開催を中止します。現地学習会の内容は、3月下旬をめどにYouTubeで公開する予定です。

[本事業の調査参加者](五十音順)

新井美那	和歌山県立博物館 学芸員
後 誠介	和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター 客員教授
鈴木裕範	和歌山大学 客員教授
砂川佳子	和歌山県立文書館 副主査
玉置将人	和歌山県立文書館 副主査
藤 隆宏	和歌山県立文書館 主任
西山史朗	和歌山県立文書館 嘱託研究員
橋本唯子	歴史資料保全ネット・わかやま 代表(和歌山大学「教養の森センター」准教授)
浜田拓志	歴史資料保全ネット・わかやま 世話人(奈良文化財研究所 客員研究員)
前田正明	和歌山県立博物館 学芸課長
松原瑞枝	和歌山県教育庁文化遺産課 技師
吉村旭輝	和歌山大学紀伊半島価値共創基幹紀州経済史文化史研究所 特任准教授

*この事業は、「令和3年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業」で行っている事業(全体事業名:社会的課題に地域と共働して取り組む博物館づくり事業)のうちの一つの事業です。